

第16条 ゴールキック

ゴールキックとは、プレーを再開するための方法の一つである。
ゴールキックは、ボールの全体が、地上または空中で、攻撃側のプレーヤーに最後に触れた後、ゴールラインを越えたときに与えられ、第10条に従ったゴールは得られない。
ゴールは、相手側に対してのみ、ゴールキックから直接得ることができる。ボールが直接キッカー側のゴールに入った場合や、ボールがペナルティエリアから出た場合は、コーナーキックが相手側に与えられる。

手順

ボールがフィールドを離れた場合、レフリーまたはアシスタントレフリーがフィールド上でボールを置き換える。ボールの全体がゴールラインを越えた場合には、ボールが出た側のセンターラインと交差するタッチライン上に置かれる。
ボールは、誰が実際にボールを蹴ったかには関係なく、最後にボールに触れたチームを基準として、アウトとみなされる。
ボールを置いた後は、直接フリーキックを行うのと同じ手順と規則が適用される。

(置き換え:

- ボールはゴールエリア内の任意の地点から防御側のプレーヤーによって蹴られる。
- 相手側は、ボールがプレーされるまで、ペナルティエリアの外側にとどまる。
- キッカーは、ボールが他のプレーヤーに触れるまで、ボールを再びプレーしてはならない。
- ボールがペナルティエリアの外側に直接蹴り出されたとき、ボールはプレー状態となる。)

違反行為と制裁措置

(一時停止:ゴールキックからボールが直接ペナルティエリアの外に蹴り出されない場合。

- キックをやり直す

ゴールキーパー以外のプレーヤーが行うゴールキック

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前に、キッカーがボールに再び触れた場合(手で触れた場合を除く)。

- 反則の起った地点から行う間接フリーキックが相手側に与えられる(第13条「フリーキックの位置」を参照)。

ボールがプレーに入った後、キッカーが、ボールが他のプレーヤーに触れる前に故意にボールを扱った場合。

- 反則の起きた地点から直接フリーキックが与えられる(第13条「フリーキックの位置」を参照)。
- 反則がキッカー側のペナルティエリア内で発生した場合、ペナルティキックが与えられる。

ゴールキーパーが行うゴールキック

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前にゴールキーパーが再びボールに触れた場合（手で触れた場合を除く）。

- 間接フリーキックが与えられ、反則の起った地点から行われる。間接フリーキックが与えられ、反則の起った地点から行われる（第13条「フリーキックの位置」参照）。

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前に、ゴールキーパーが故意にボールを扱った場合。

- 違反がゴールキーパーのペナルティエリアの外で起きた場合は、相手側に直接フリーキックが与えられる。違反がゴールキーパーのペナルティエリアの外であった場合、直接フリーキックが与えられ、違反の起った地点から行われる（第13条「フリーキックの位置」参照）。
- 反則がペナルティエリア内で起きた場合は、間接フリーキックが相手チームに与えられる。反則の起った地点から行われる（第13条「フリーキックの位置」を参照）。

その他本条に対する違反があった場合

- キックはやり直される。）